

安産祭り

34

もそろ げにもそろ



安産祭り

写真提供) 有限会社マーディー

諏訪神社は、安産や子授けの守護神として崇敬される神社です。ここで行われる「安産祭り(山中明神例大祭)」は、豊玉姫を祭神とし、妊産婦や新婚女性が集まるお祭りとして全国的に有名です。また、夕暮れ時にムササビが時々滑空しているのも名物となっています。

～祭礼の流れ～

- 9月1日 奥宮祭：明神山山頂にある諏訪神社の奥宮にて神霊の降臨を願って参拝
- 9月4日 御神渡り：早朝に奥宮から諏訪神社を結ぶ山中湖上を祭神が渡ってくるといわれている。
宵祭り：子供神輿、御霊遷し(神殿から神輿)、獅子舞神楽、神輿(神殿からオタマヤまで女性たちがお供)
- 9月5日 本祭り：オタマヤにて山中明神太鼓、山車舞踊り、神輿(オタマヤから神殿まで女性たちがお供)、御霊遷し(神輿から神殿)
- 9月6日 後祭り：稚児行列、奉納相撲

村のみんなの

声

昔は、お客さんを相手に民家でうどん・そば・おでんなどを売った。

昔は、昼間にもぎやかだった。今は夜のお祭り。

祭りの夜はどの家も、「でーさ」と呼ばれる広間でごちそうをふるまう。

お祭りには、各店で貝のヒモ煮が出される。

初めての時、こんな山の中で海の貝のヒモが！と驚いた。

貝のヒモ煮は山中弁で「きゃあヒモ」

山中明神太鼓は、35年ほど前に祭りのお神楽の復活をしようと始められた活動で、今も続いている。

ムササビは陽が落ちると、樹木の「うろ」から出て、エサを取りに滑空していく。

マタニティイベントとして世界の夫婦を滞在型で呼べる可能性がある。

「子宝の木」は看板で案内もされていない、地元の人達が名づけた木。

神社の境内の隅には木が二股に分かれている「子宝の木」がある。

子授かりから安産まで、数年間はお参りに来る神社。

奇祭としてもっと知ってもらいたい。

御神渡りの朝は「漁をしない」とか「舟を出さない」とか言われている。

達人

山中諏訪神社宮司
坂本 任邦さん

掘り起こされた

宝

35 安産祭り

36 諏訪神社奥宮

● 山中明神太鼓

● 貝のヒモ煮

● 明神太鼓の皆さん

● 子宝の木

● ムササビ

September

9月

長池の天神様

35

光親^{みち ちか}卿^{こう けん}の貢献^{こう けん}を称^{たた}えて



長池天神社

長池天神社は、学問の神のほか、荒馬の欠点^{きんてん}を直すと言われており、愛馬の無事長久を願って祈願参拝されてきました。

祀られている藤原光親卿は鎌倉時代（13世紀）、長池部落に立寄り、村人を集めて学問や武芸を伝授していましたが、承久の乱の際に籠坂峠^{かごさかとうげ}の付近で殺害されてしまいました。村人たちは光親卿を葬り、社を建て、天神様の名を借りて祀ったと伝えられています。

毎年9月25日には例祭が行われ、大正時代までは泊りがけで見に来る人もいほどにぎわっていました。しかし、関東大震災や戦争などにより、その規模は小さくなっています。現在は映画鑑賞や子供の踊り・神輿、演劇などが行われています。

村のみんなの

声

昭和の頃、長池の小学校が火事に遭った際に、天神社の建物を仮校舎として使っていたという話もある。

子供神輿は、社から軽トラックで長池の集落まで運ばれてから、集落の中心を練り歩く。

一般的に神社は高台にあるが、この天神社は道路の下にある。これは、天神社が建てられた後に道路ができたからであり、昔の道である鎌倉往還は天神社の下にあった。

菅原道真、日野俊基、藤原光親は日本学問三神として全国民に尊奉されている。

天神社を最初に建てた際は、光親神社と呼ばれ、入口は籠坂を向いていた。

当初は菅原道真が祀られていると言われていたが、その後、藤原光親に訂正された。

天神社は現在は湖畔にあるが、元禄時代までは別の場所にあったと言われている。

元禄時代に改築はされているが、移設したという記録はない。

道から下って参拝するというお宮はめずらしい。

掘り起こされた

宝

37 長池天神社

38 藤原光親処刑場跡

39 藤原光親墓跡

September

9月

フジアザミ

36

庭を彩る荒地の大輪



フジアザミの花

村のみんなの

声

一株に20～25の花が咲く。

種を家に持って帰って、庭に植えたりもする。

道路、湖畔の整備で全体的に少なくなったようだ。

ままの森と芙蓉台入口の中間地の下は、7～8株増やしてはどうか。

こんなに大きなアザミは、他の地域ではなかなか見られない。

富士山の大きさに良く似合う葉と花。

観光客が珍しがる。必ず写真を撮っていく。

蛾の仲間であるホウシャクがいる。

三国山からぬける途中、寿徳寺、籠坂峠の一部の庭、スバルライン沿いにもある。

掘り起こされた

宝

●フジアザミ

明神山山頂のフジアザミは全て白花。

フジアザミは日本固有の種類であり、日本産のアザミの中では最も大きな花を咲かせます。富士山周辺の砂礫地や河原で多く見られることから、この名前が付けられています。

村では、9月から秋にかけて紫色の花を咲かせます。稀に白色の花も見かけます。

また、根が柔らかく食用となることからフジゴボウ、スバシリゴボウとも呼ばれ、春先のやわらかい若芽もてんぷらなどにして食べられています。

September

9月

農産物の今昔

37

工夫と努力の農の歴史



昔の平野の米作り

出典) わたしたちの山中湖村 山中湖村教育委員会

村の農業は、その気候や土壌の特性から土地生産性が低く、雑穀、豆類、イモ類が多く栽培されていました。その後、品種改良等の農業技術の発達により、特に、平地の多かった平野では、昭和30~50年頃まで、コメや大根も栽培されるようになりました。

現在、農業だけを生業とする家はなくなりましたが、長池ではインゲン豆に似た地野菜の「そうべえじゅうろく」を作っていたり、花の都公園等ではトウモロコシをはじめ、里芋の仲間のヤツガシラの茎部分を大きく育てた「いもがら」を作っていたりしています。

村のみんなの

声

いもがらを村の名産にしたいが、種イモは村内では作れず、地域外から購入しており、価格も高めであるため、あまり採算が取れない。

じゅうろくの種は売ってなくて、長池でとれた種を植えて育てる地野菜。

いもがらの主根の芋は“ひずい(えぐい)”ためあまり食べない。

じゅうろくは、秋にはさやを乾燥させて中の豆を取り、煮豆にする。

いもがらを酢の物や煮物にして食べる。

ヤツガシラはふつう、根の部分が大きく育つが、村は寒いためか、茎だけ育つ。

平野の田んぼは溶岩の土地で、あまり美味しい米ではなかった。

いもがらは、茎が赤いことから「あかがら」とも呼ぶ。

大根の栽培は、土地がやせてしまうため連作むずかしい。真ん中に黒い「ス」が入ってしまう。

大根は、山中ブランドとして都市部で高く売れた。



花の都公園のとうもろこし畑

掘り起こされた

宝

●じゅうろく
●平野の米

●いもがら
●大根畑

September

9月